

前期授業評価 『学生から教員の方々へ』

令和元年度前期に学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

□ 講義系授業の結果



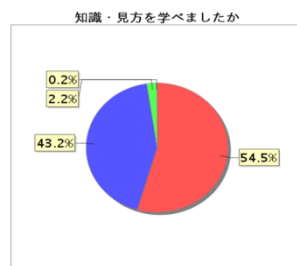
□ 実技系授業の結果



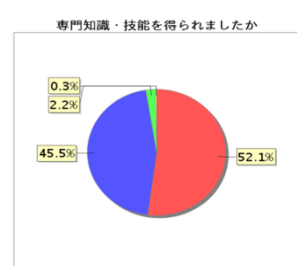
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



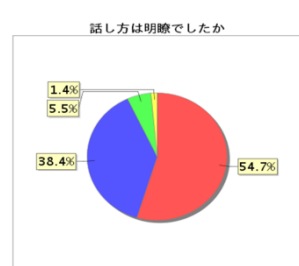
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



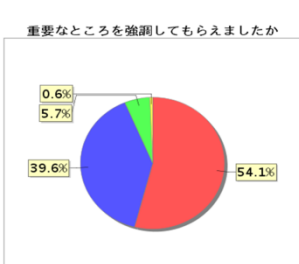
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



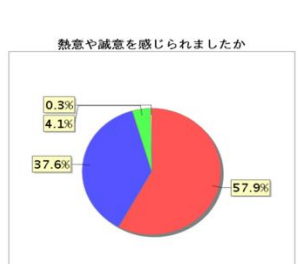
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



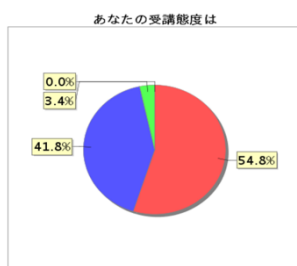
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



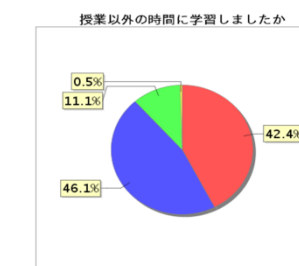
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



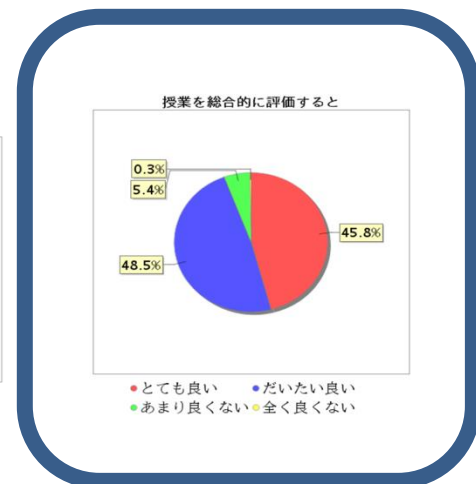
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった



● とても良い ● だいたい良い
● あまり良くない ● 全く良くない

<結果からわかること>

1. 総合的評価

総合的評価について、“とても良い”または“だいたい良い”と回答した人は、講義系 92.3%、実技系 94.3%となっており、多くの授業が学生によって肯定的な評価を得ていました。

2. 学生の自己評価

「受講態度」については、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人は講義系で 94.0%、実技系で 96.6%と、昨年度前期と同程度に多くの人が肯定的に評価しました。学修成果の指標である「知識・見方」「専門的知識・技能」についても講義系で 94.4%、実技系で 97.6～97.7%の人が肯定的に評価しており、ほとんどの人が昨年度と同じように、新しい知識や技能の習得を実感していました。講義系の「理解」を見ると、90.5%の人は授業内容を概ね理解できており、昨年同時期（86.7%）と比較すると理解度が上がりました。

講義系の“授業以外の学修”については、他の項目に比べて達成度が低く、従来からの課題です。授業時間外の予習や復習が出来なかった学生の割合は、昨年度前期 19.9%から後期 23.9%と増加してしまっていたのですが、今回は 14.8%と大幅に減少し、授業時間外の学修が習慣化してきているようです。“シラバスを読んだ”人は昨年度と同様に、講義系で 88.7%、実技系で 89.2%と多く、シラバスの確認も定着してきています。授業を受ける前に授業の全体の流れを把握し、授業目標や到達指標を意識して取り組むことは、学修計画を立てる上で有効な方法です。毎回の授業内容や小テスト、レポート提出時期などを踏まえて学修計画を立て、取り組みましょう。

3. 教員に対する評価

講義系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「文字の見やすさ」「重要どころの強調」という教授方法に関する項目に対する肯定的な評価は 88.5～92.1%で、多くの学生にとって満足度の高い授業であったようです。実技系の教員も、「話し方」「テキストの効果的使用」「重要どころの強調」「十分な指導」「公平な対応」が 92.6～94.5%と、昨年同様、高評価を得ていました。

教員の「熱意や誠意」「参加の促し」「静粛さを保つ」等の学生への働きかけについては、講義系で 90.5～93.9%、実技系で 95.5～96.5%と多くの学生から肯定的評価を得ていました。今季の授業評価の対象となった科目はそれぞれ異なる教員が担当しており、それらの受講学生の平均 9 割以上から肯定的な評価が与えられたということは、本学教員による教育の質の高さを示すものです。本年度前期も多くの教員が熱意をもって授業を行っており、学生にもそれが伝わっていることが以上の結果から示されました。

前期授業評価 『教員から学生の皆さんへ』

令和元年度前期授業評価に対する教員から学生の皆さんへの回答をまとめました。

【 幼児教育学科 】

◆ 保育原理

1. 授業評価の結果に対するコメント

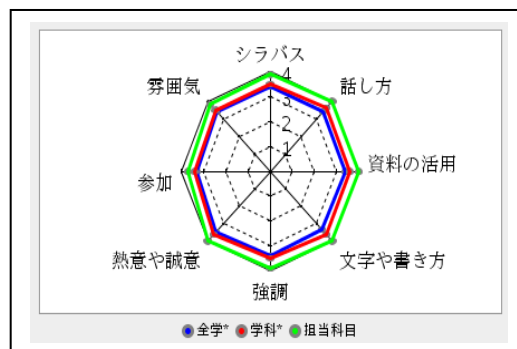
現場の事例や経験を交えた講義内容から、学生が今後の実践の参考にしていることが分かりました。学んだことを生かしたいという記述も多く、今後も将来に向けての学修につなげていけたらと思います。また、毎時の学生からのコメントを、いくつか授業前にフィードバックする試みが他学生の異なる視点からの学びになっているようで、多様な視点から学修を深めていってほしいと思いました。講義前に継続して行った「手遊び」「絵本」も保育技術を学ぶ機会になっており、学修の導入や授業の楽しみの1つになっているようですので、続けたいと思います。楽しんでくれた学生の皆さんありがとうございます。

◆ 2. 今後の授業における目標

前年度から継続して、保育事例から保育者としての基礎的な資質を養えることを目標としてきました。授業コメントや評価から、ある程度の達成度がうかがえました。今後は、学生同士が意見をどのように交流していくか、アクティブラーニングでの学修をより充実させていけるか、を目標とし、学生の自己の取り組みに対する評価につながる授業展開を目指したいと思います。

3. 受講学生に対する要望

受講生からの要望として、子どものケンカに関するグループワークをしてみたいという要望があるため、アクティブラーニング型の授業を積極的に取り組んでいくなかで応えていきたいと思っています。障がいのある子どももできる手遊びといった、多様な子どものニーズに応えたいという学生の要望もあるため、より様々な場面やケースを想定した授業にしたいと思っています。



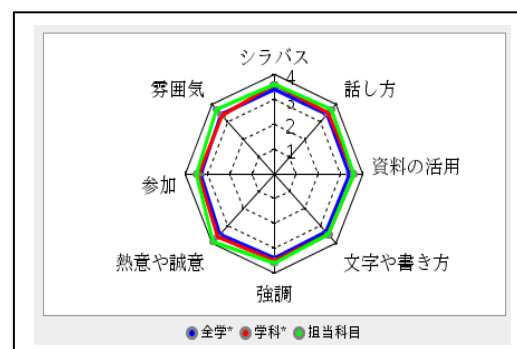
【 音楽総合学科 】

◆ 音楽療法入門

1. 授業評価の結果に対するコメント

総合評価が 3.7 と平均よりは高かったのですが、回答数が少なく（51人中 20人）あまり参考にならないかもしれません。

この授業は教養科目なので、興味を持って登録して来た人もいるし、仕方なく受講している人もいるように思いました。回答してくれた学生は熱心に受けてく



れた人ではないかと推測します。

前回同じ科目で授業評価を受けた際のコメントに、板書が分かりにくいというものがあったので今回は丁寧に板書することを心がけたのですが、どれが重要なのかポイントがわかりにくいというコメントがありました。反省して今後の課題とします。

教室の座席が少ないというコメントについては、申し訳ないですが音楽総合学科で一番大きな講義室を使用しているのもこれ以上となると教室移動しか方法がありません。できれば音楽棟で行いたい（授業で使うピアノや音響設備があるため）ので、快適にすごせるように工夫できる点があるかどうかを考えます。

楽器がもう少し多いほうがいい、全員に行きわたらなかったというコメントは反省すべき点だと思っています。多くの楽器を運んで行きわたらせるという意味でも教室変更は難しいと思います。

2. 今後の授業における目標

以下の2点です。

- ①わかりやすい板書を心がけます。要点を理解してもらえるように授業のまとめに時間を割きます。
- ②実際の体験をしてもらうときに楽器が十分行き渡るようにします。

3. 受講学生に対する要望

教室の大きさがぎりぎりまで学生が入っているので私語をする学生がいるとよくわかります。他の学生の迷惑にならないような態度で受講してほしいと思います。

◆ P・Or アンサンブル （受講生少数のため、レーダーチャート無し）

1. 授業評価の結果に対するコメント

この授業の学修を通して、ソロとは違ったアンサンブル演奏に必要な技術をほとんどの学生が修得できたようでした。また、授業を通して責任感やコミュニケーション力も身に付けることができたとの記述もあり、本科目の到達目標を幅広く達成できたのではないかと思います。

アンサンブルの難しさ、相手と合わせることの大切さを感じながらも、一人では感じられない音楽の楽しさや、互いの息の合った演奏ができた時の達成感を味わうことができたとの記述もあり、アンサンブルの学修を通して様々な経験ができたようで、大変嬉しく思います。

2. 今後の授業における目標

これまでの授業内容や方法等を継続しながらも、今回の授業評価の結果のように、アンサンブルの学修を通して様々な学びができるように、学生の意見や希望も取り入れながら進めていきたいと考えています。

3. 受講学生に対する要望

今後、アンサンブル演奏をする機会があれば、授業で学んだことや経験したことを是非活かしてほしいと思います。また、これから受講する学生には、責任を持って課題に取り組み、パートナーとコミュニケーションを取り協力しながら、アンサンブル演奏を学んでほしいと思います。

【 デザイン美術学科 】

◆ マンガ基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

総合的に悪い結果ではないと思うが、学生自身の取組評価で、「授業外」「知識や技能」が低いのは、課題の内容が若干軽めであるのかと思う。もう少しボリュームのある課題を与えても良いかもしれない。

教員側への評価では、「資料の活用」の低さは、実際にほとんどの課題を板書説明で行っているためである

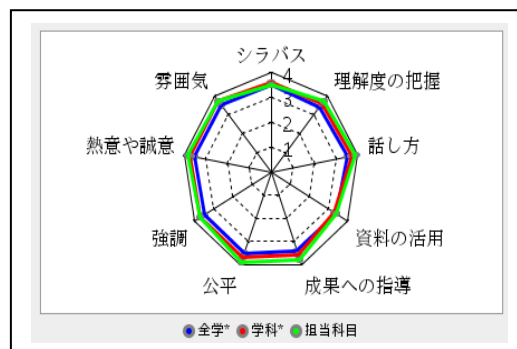
う。「成果への指導」に関しては、実践的に指導を行っているつもりであるが、学生はフィードバックに物足りなさを感じているのかもしれない。

2. 今後の授業における目標

意識すべき点は、「資料の活用」「成果への指導」の2点である。設問17の「改善したほうが良い所」に、プリントがあると良いという記述がある。持ち帰れる資料があれば、自宅での反復がしやすいという事も含まれているように思う。ここを改善することで、「授業外」での学生の取り組みが増す可能性があるだろうし、提出された課題（成果）に対するフィードバックをさらに心掛けることも、技術の向上につながると思われるので、上記2点に留意していきたい。

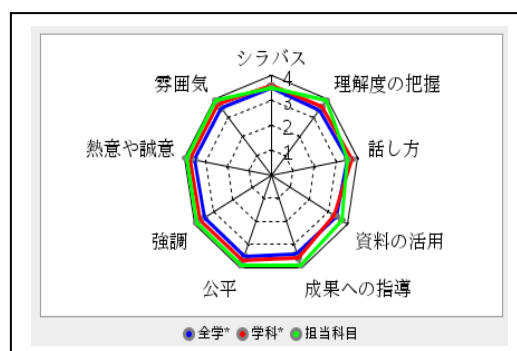
3. 受講学生に対する要望

本授業は文字通りマンガの絵に関する基礎となる科目なので、一つ一つの課題を“教わった”で終わらせず、身に付くよう反復してほしい（ただ、それは「2」に記した目標と関わることであり、自身の反省すべき点だとも感じている）。



◆ 背景画基礎

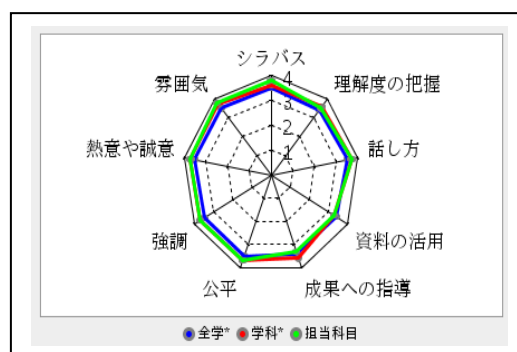
今回のアンケートは履修者18名中15名による結果であった。評価点については毎年同様、総合及び各項目別においても全学平均を上回る数字であった。各項目別においても「シラバス」「話し方」「資料の活用」以外の項目ですべて4.0満点中3.9点でありこれもまた去年一昨年と同様の結果であった。今後は上記三点を修正工夫し更なる授業改善に努めたいと思う。



◆ クロッキー基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価では、おおむね平均点もしくは少し高い評価となった。しかし、授業外は、[全学3.3][学科3.3][担当科目3.1]と全学、学科に比べ低い値となった。授業時間以外の学習においても、もっと意義を説



明する必要性を感じた。

クロッキーの授業では、モデルさんが帰られた後は、指導を受けることが出来ないと思っていたかもしれないので、オフィスアワーの活用方法について説明・指導する必要性を感じた。

教員の取組に対する評価では、全学、学科において9項目中6項目は、平均点もしくは少し高い評価となった。しかし、成果への指導は、[全学 3.4][学科 3.6][担当科目 3.3]と全学と学科に比べ低い値となった。この授業は、授業時間が90分と短く、20分がポーズ時間、その後の10分が、モデルさんの休憩時間となり、それを3回繰り返す、特殊な授業形態となっている。描画時間が短く、時間をかけた個別指導は難しいため、このような結果となったと認識している。充実した個別指導ができるよう考えていきたい。

自由記述において、「実際の人物をデッサン（クロッキー）したのは初めてのことで、とても良い経験になった。毎回、授業の初めにその日のポイントを教えてくれて身が引き締まった。」「苦手なポイントを重点的に指導していただいた。」など、いくつかをコメントを書いて頂いた。この授業の意義を制作を通じて理解いただいたり、自身の専門領域との結びつきの気づきの機会をつくれたこと等が、垣間見えた。学生の自主的な学びの姿に、感動した。

すべてのコメントに真摯に向き合い、これからの授業に活かしていきたい。

2. 今後の授業における目標

この授業では、人体構造の把握、重心を意識した人体表現、様々な視点からのモデル観察、短時間描写、多様なポーズの描写など、実際にモデルを目の前で観察することで可能な学修効果が多く含まれています。90分間の授業の、より充実したあり方について検討をし、さらには事前及び事後学修の充実を図り、学生の要望理解とスピード感ある対応を心がけたいと思いました。

3. 受講学生に対する要望

絵を描くことは、「事実を観察する力」、「事実を認識する力」、「事実から感じとる力」、「メディア特性を理解した表現する力」、「表現の効果を測る力」、「より適正な表現に改善する力」「条件の中で最善のパフォーマンスを発揮する力」など、さまざまな能力を引き上げてくれる可能性のある行為です。上記の力を統合的に高めて『絵が上手』『センスがある』を獲得し、自己顕示欲解消の為でなく、豊かさの創造に活用していただけると嬉しいです。

◆ 3 DCG

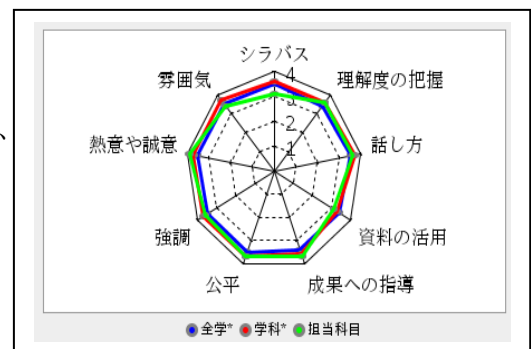
新しい知識、専門的な技能を学習に、意欲的に取り組む学生の意識が伺え、学生自己の取り組み、教員の取り組み、学習機会を、授業外、放課後も提供していきたい。

専門的学習に向けたシラバス、放課後学習含めた制作、資料の活用には、ソフトウェアに必要な次期パソコン性能が欠かせない。前期授業では旧型機器により、工夫し極力対処を試みたが、画質の劣化、パソコン停止等、限界があった。市販教科書の予習、復習含め、機器性能上実行できない部分があった。

適切なパソコンが揃うことで、制作を進めることが可能となる。

適切なパソコンが揃うことで、制作を進めることが可能となる。

自由記述からは、3DCGをわかりやすく学ぶことができたことや、ゲーム、アニメの専門的なソフ



トMAYAへの関心の高さが強く感じられた。授業や放課後の教室で作り続ける機会を増やしたい。

【 歯科衛生学科 】

◆ 口腔外科

1. 授業評価の結果に対するコメント

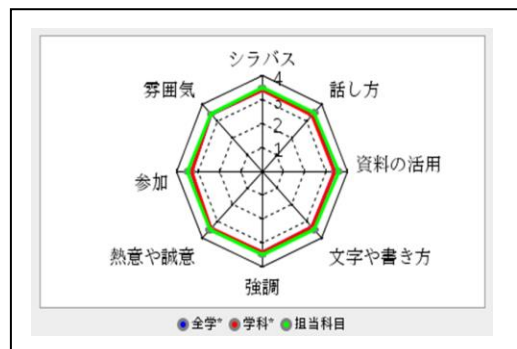
歯科衛生学科2年次学生50人より口腔外科学の講義に対する評価：3.5(総合評価)を頂き、おおむね満足している。4点近くなると学生迎合気味な講義と捉えられ、一方2点以下では学生の満足が得られていないと感ぜられる。

2. 今後の授業における目標

1にも記したが、3.5の評価は“やや学生迎合”感が否めないと自己反省し、“厳しさ”と“分かりやすさ”を両立できるように努力していきたい。

3. 受講学生に対する要望

学生として“勉学に励む”部分と、“青春を謳歌する”部分のスイッチ on/off 切り替えをはっきりさせ、楽しい学生生活を送って欲しい。



◆ 障がい者歯科学

1. 授業評価の結果に対するコメント

専門性の高い内容であるにもかかわらず授業内容や配布資料がわかりやすいという評価がいただけた。授業に際し、

- 1) 授業のために励ます
- 2) 重要事項を絞り込む
- 3) 情報を整理して提供する
- 4) 毎回の授業で重要事項の復習をし、繰り返しの習慣化を目指す。

ということを心がけた。

自由記載の欄に上記のことに対し、非常に好意的に受け止めている学生がいることがわかったので、今後も続けたいと考えている。

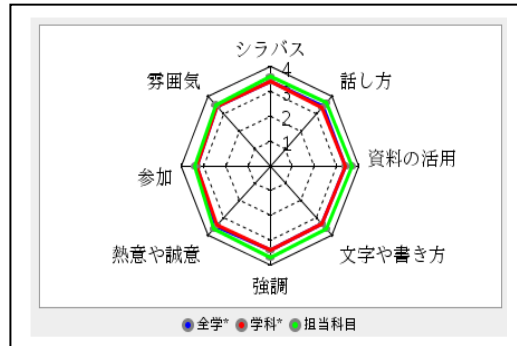
2. 今後の授業における目標

教員に対する評価については、どの項目も高い評価をいただいたので、今後もさらにブラッシュアップしてよりよい授業を心がけたい。一方、自己の取組のうち、授業外の取組の評価が他項目と比べてやや低かったので、改善するように取り組みたい。

3. 受講学生に対する要望

学生には

- 1) 真面目に授業に取り組む
- 2) 私語をしない



3) 習った内容をできるだけ早い時期（できれば1日後）に目を通すを望みたい。

◆ 発達口腔保健演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

初めに、結果が対象履修者数 59 人中、回答数が 55 人と全員の回答が得られなかったのは、とても残念です。その結果、学生の自己の取組では、シラバス以外は学科平均とほぼ同値であり、教員の取組に関する評価も学科平均とほぼ同値であるが若干「強調」が 0.1 ポイント低い結果となりました。

学生の自由記述で良かったところは、「小テストがあり良かった」、「プリントや説明が分かりやすかった」「聞き取りやすい声で良かった」等肯定的な意見がありました。一方、「パワポの移動が早い」、「プリントの書く時間を十分に与えてもらえない」という意見もありました。

2 年前期では、私の担当科目が 3 科目あり学生が科目を混同している可能性もありますが、何れにしても担当科目なので、学生の理解度を深めるため改善点を常に意識し授業に臨みます。

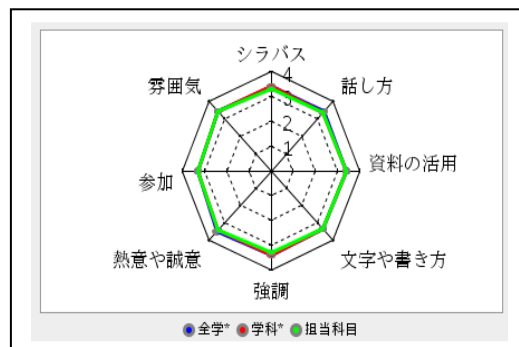
2. 今後の授業における目標

学生からの改善点は、「パワポの移動が早い」、「プリントを書く時間を十分に与えてもらえない」という指摘がありました。その解決策として、これまでも学生の表情や授業進度を考えて進めていきましたが、さらに学生全員が授業中 1 人も取り残されないように学生の受講態度をよく把握するように努めたいです。

予習は、現在の学生の学習状況から実施するのは困難と感じています。小テストや配布されたプリントを熟読し、復習がしっかりできるような授業の資料内容の充実を図っていきます。

3. 受講学生に対する要望

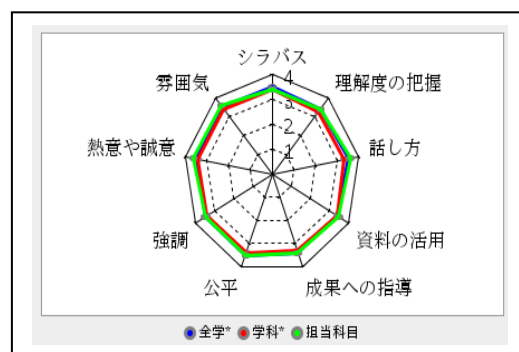
2 年生前期の時間割は、実技系科目が多く出来る限り欠席しないように体調管理には留意して欲しいです。自己の健康管理が出来るようにして、多くの課題をしっかりと行いましょう。授業を漠然と聞くのではなく、疑問に思うこと、不明な語彙は自ら調べる努力をしてください。特に復習をしっかり行い、理解が深まると学ぶ意欲が起きると思います。



◆ 歯周病予防技術法

1. 授業評価の結果に対するコメント

評価結果においては、【総合評価】だけでなく【自己の取組に対する評価】【教員の取組に対する評価】においても全学・学科評価をほぼ上回ることができホッとしている。この科目は入学して間もない学生が専門知識とスケーラーという口腔内での繊細な操作の技術を修得することが目的となる。特に今まで【自己の取組対



する評価】では、「シラバス」と「時間外」に関してのポイントが低い点が課題であったが、その点についても学生の努力がみられた。【教員の取組に対する評価】では、話し方、熱意や誠意、雰囲気などのポイントが高いことに関しては、技術的に高度な内容のため、その修得については丁寧な指導を心がけた。また、複数の教員が担当するため、指導内容の統一や公平性を図ることも必要であり、おおむね達成できたと感じる。

2. 今後の授業における目標

技術修得が中心の科目である。修得した技術は以降の学びの基礎であり、後期から開始する「歯周病予防技術法Ⅱ」や2年次の「歯周病予防技術法Ⅲ」に直結している。ただ単に試験に合格するための知識・技術ではなく、到達度を自覚し自信をもって応用できるよう指導していきたい。授業内・外での練習時間も十分に設定しているが、負担なく取り組めるよう時間の確保を考慮していきたい。また、学生の修得進度は個々に差が生じてしまうため、今までどおり個別指導の充実を図っていくために、教員間での打ち合わせを密にし、向上心を生かせるよう授業を展開したい。

3. 受講学生に対する要望

技術を修得するためには、授業時間内だけでは十分に達成できないため、繰り返し練習することが必要である。授業外でも積極的に自主練習するように努めてほしい。また、疑問点はできるだけその場で質問するなどして解決してほしい。知識は授業で行った項目を丸暗記するだけではなく、自主的に学習し実技と関連付けて理解していくことが大切である。

◆ 診療補助実習 I

1. 授業評価の結果に対するコメント

この実習は歯科の臨床において基礎的な実習です。しかし日常生活では見たことのない器具や薬品、材料がでてきます。学生には馴染みのない物ばかりで、イメージが湧きにくい実習だったと思います。授業中のパワーポイントでは、写真を多くしてイメージが湧きやすいようにしました。しかしカタカナや漢字の

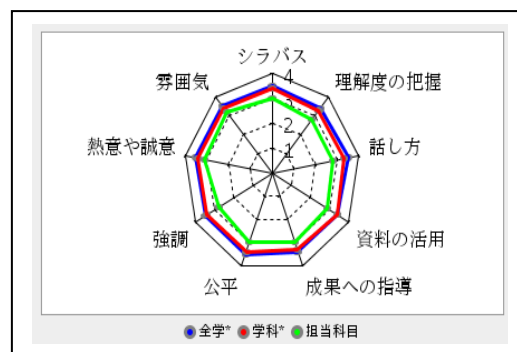
材料が多数出てきて複雑になり、途中で分からなくなってしまうと、思考停止してしまう学生もみうけられました。学生の指摘にあったとおり配布資料や教科書、パワーポイントと内容にずれがありましたので、ますます分かりにくくなったと思います。器具や材料には様々な名称があることを、授業の中で口頭で伝えましたが学生には伝わりにくいようでした。今後どのようにしたら伝わるのか十分考えていきたいです。

2. 今後の授業における目標

- ・複数の教科書を使用すると、材料や器具の名称が教科書により違いがあるので、使用する教科書を1冊に絞るか、複数の名称を配布資料、パワーポイントに示すかどちらが学生にとって分かりやすいかを検討する。
- ・資料提示装置を十分に活用し、配布資料を提示して授業を進める。

3. 受講学生に対する要望

実習が専門科目の授業より先行して開始されます。そのため、指定された教科書を分からないなりに読んでくる必要があります。少なくとも掲示で示された教科書の内容は読んできてくだ



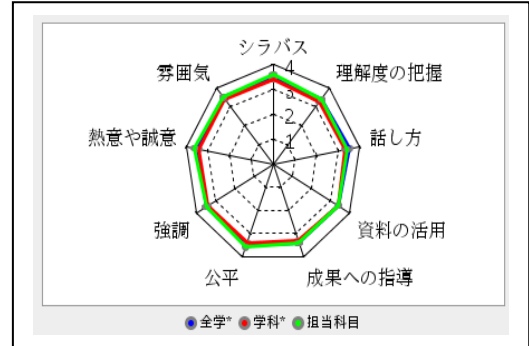
さい。予習されていないと、ページを開き、ラインを引く文章までどり着くのに時間がかかってしまいます。捜している間に説明が終わってしまいます。そして授業内容はどんどん変化しますので、頭の切り替えも必要になってきます。

できるだけわかりやすい説明を心がけるので、分かりにくいところは質問してください。

◆ 歯科保健指導基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

- それぞれの項目での評価点数を上げられる余地があると思うので、学生の自己学習等、自己の取り組み（特に復習）を促せるようにしていきたい。
- 学生の私語に対する授業時間内での注意はしていたつもりだったが、もっとしても良いという意見があったので、個人的に注意をしたりして、全体での進行時間には差し支えないように行っていきたいと思った。



2. 今後の授業における目標

- 学生全員に目が行き届くように、わからないことがおざなりになってしまわないように、特に実技部分においての復習、演示を細かく行っていきたいと思う。

テスト前の対策など、今回の授業では不足していたところがあったため、反省点として来年度に生かしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

- 歯科では実習衣を着用しているため、医療人としての振る舞いなど、1年生のうちに身につけてもらいたいため、自覚をもって行動することを覚えてもらいたい。
- 授業時間内での私語が多く、集中力が欠けてしまわないように気をつけてほしい。
- 最低限の提出物の提出、レポートの記入ができるようになってもらいたい。

【 看護学科 】

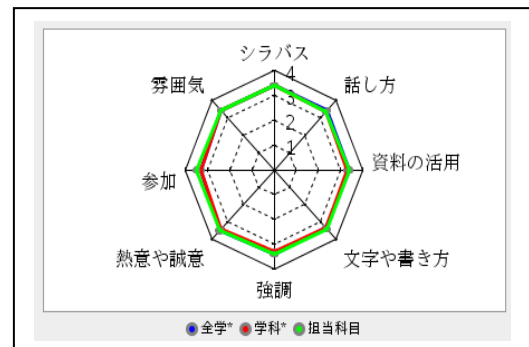
◆ 臨床病理学

1. 授業評価の結果に対するコメント

看護実習に入る前に、看護師国家試験によく出題される人体の構造と機能および疾病について講義した。なぜなら、実習と解剖および疾患を結びつけることにより、記憶が定着しやすいことは多くの卒業生から聞いている。その先輩の経験とこの講義の意義について学生に説明した。

その結果、多くの学生は私の意図を理解してくれたように思うが、一部の学生には理解されなかったため、今後の授業に役立てるつもりである。

2. 今後の授業における目標



学生が自ら学びたくなるような、興味を引き出させる楽しい授業がしたいと思う。

3. 受講学生に対する要望

興味をもって学ばないと記憶に定着しない。学生には記憶が定着しやすい自分に合った勉強法を編み出してほしい。

◆ 終末期看護 (受講生少数のため、レーダーチャート無し)

1. 授業評価の結果に対するコメント

選択科目で少人数であったこと及び終末期に関心のある学生の受講であったため、PBLに近い形で授業展開できたことによってなのか、学生からの不満は一切なかったし、学生が指摘する改善点も一切なかった。

2. 今後の授業における目標

今後は、新しく着任予定の慢性期担当の先生が担当すると伺っています。従って目標はありません。

3. 受講学生に対する要望

短大では選択科目となっているため、本当に関心のある学生が選択することが望ましいと思います。

◆ 老年看護学概論

1. 授業評価の結果に対するコメント

4月に異動してすぐの授業であり、学生のレディネスがつかめないうまま開始した。老年看護学の入り口にある科目であり、これから、卒業まで、また卒業後の超高齢社会に対応できることを願っての講義内容としている。

できるだけ具体例を入れながら、高齢者の増加とともに、高齢者ケアもどう変化してきたか等を伝えてきたことで、高齢者に対するイメージが変わったというメッセージをくれる学生もいた。

しかし、「何を覚えたらいいいかわからない」など、この授業で必要なことだけを教えてくれればよいとする学生も数名いた。

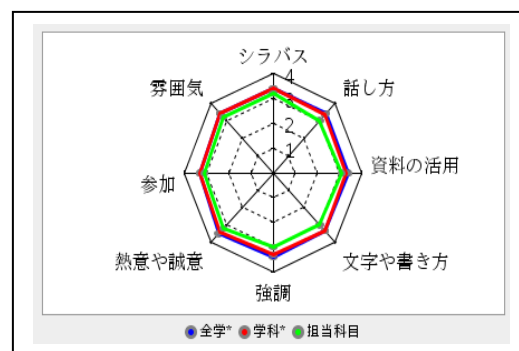
大学教育、国家試験対策それらが錯綜している中での授業の難しさを感じた。

2. 今後の授業における目標

次年度開講の予定なし

3. 受講学生に対する要望

分からない点は、出席カードへコメントを記載してくださるか、オフィスアワーに尋ねてきてください。



◆ 母性看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

おおむね良好な結果であった。昨年度と比較すると、学生自身の「自己の取組みに対する評価」が各項目ともわずかながら上昇が見られた。

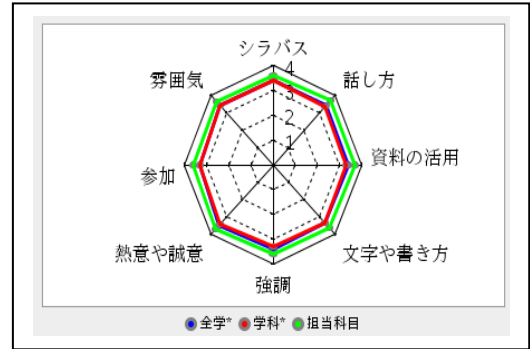
資料の量、内容は、昨年度の評価に基づき厳選したが、本学年より導入されたテキストを十分活用した予習・復習により、豊かな自己学修が行えると思うので、更に精選したい。

2. 今後の授業における目標 (次年度は当該科目の開講なし)

3. 受講学生に対する要望

授業で繰り返し強調した箇所は、定期試験ですべてを確認することはできておりません。また、講義での解説のみでは十分とはいえません。しかしながら、いずれの内容も、実習、国家試験対策、さらには臨床で看護師としての責務を果たしていく上で必須となる知識ばかりです。後期の母性看護演習では、本科目で修得した知識に基づいて授業が展開されます。テキスト等で十分に復習し、正確な知識を基盤とした母性看護技術を着実に獲得されるよう期待しております。皆さんが懸命に作成した素晴らしいポートフォリオを最大限有効に活用し、母性看護に対する関心をますます高め、意欲的に学んでいていただきたいと思います。

授業は終講しましたが、オフィスアワーはいつでもオープンしております。わからなくなったらいつでも研究室を訪ねてください。心から応援しています。



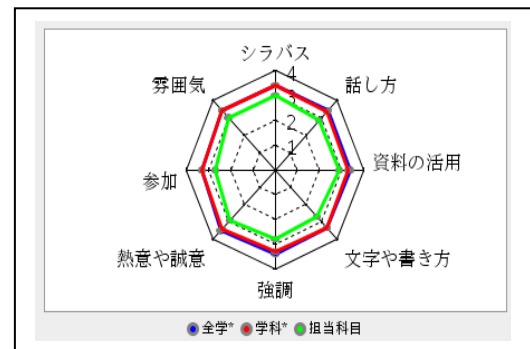
◆ 在宅看護概論

1. 授業評価の結果に対するコメント

- * テストの出題について「何がでるの」と問いかけてくる学生が7-8名いた。その理由を聞くと、教員が、「聞きに来たら教える」とか「聞きに来ない学生が悪い」と言われたという。講義中に大切なところは話しているので・と答えると不満そうであった。テストにでるところだけを学習する習慣は学修のためには不適切と考える。オフィスアワーを活用してほしい。
- * 自宅学習ができない学生が5名程度いた。シラバスに記載してある課題でも2-3行書けばよい、ただ白紙でなく提出すればよいといった安易な捉え方をしているようだ。提出後の講義でしっかり取り組んでほしいと要望したが、改善は難しかった。
- * 在宅分野の考え方は他の領域と視点が異なる捉え方を求める内容が多いとも思えることから、学生は学習しづらいと感じることがあったと思う。しかしこれからの看護においては地域で提供される看護が、地域で必要とされる考え方を身につけることは必要不可欠であることから、興味をもって取り組んでもらえるような工夫をしたい。

2. 今後の授業における目標

- * 臨地の訪問看護師を招聘して地域で活動する魅力や看護師としての使命感を語っていただき、



学生が在宅（地域）にも関心を持てるよう計画する。

* 適宜課題を出す。

* 講義での学びを確認できるような出席確認表を作成して学びの確認をし、質問に答える方法で振り返りを行う。

3. 受講学生に対する要望

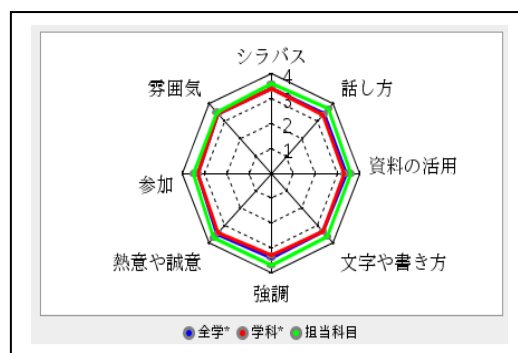
* 講義中に「トイレ」に立つ学生が多いように思う。

* 自分でノートテイクする習慣を持ってほしい。

◆ 成人看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

専門領域では学年が上がるにつれ、授業の内容も難しくなり、耳にしたことのない用語や画像が多く出てきます。シラバスの内容どおりに行うよう心がけていますが、時には授業のスピードを速めたり、内容の説明を省略する場合もありました。毎回、授業を受けている学生の理解度や意見を聞きながら授業内容を検討し、興味を持てるように進めていきました。「わかりやすい」「楽しかった」などの意見もありましたので、さらに工夫をして、臨床における具体的な場面などを取り入れるなど、より理解しやすい授業ができるように努力していききたいと思います。



2. 今後の授業における目標

授業においては、後で振り返ることができるように多くの資料を準備していましたが、資料の量が多過ぎるなどの意見もありました。受身の授業とならないよう、毎回の授業の中で学ぶきっかけを持てるよう工夫をし、学生自ら復習して深めたり、さらに広げて調べることができるように支援していききたいと思います。

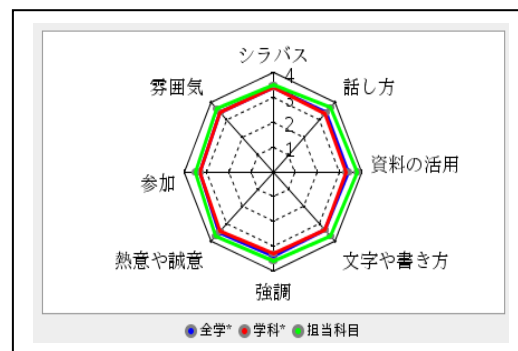
3. 受講学生に対する要望

質問や疑問があれば、迅速に対応していききたいと思います。毎回提出するレポートの中で知らせていただければ、次回の授業までに返事をさせていただきます。また、オフィスアワーなどを利用して研究室に来てください。学ぶ喜びが味わえると良いと思います。

◆ 成人看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

全学及び学科とも総合評価のポイントを上回ることができ、標準以上の講義を提供できたことがわかった。学生の自己評価では、「シラバス」の評価が低い。シラバスに関しては講義開始時だけでなく、授業毎にシラバスを活用したが、学生個々が「シラバスを使った」という実感を得られなかったのかもしれない。教員評価では「参加」の評価が低く、グループワークや反転授業等をうまく取り入れられなかったことの



結果であると考え、「話し方」「文章の書き方」「熱意や誠意」の評価が高く、学生と講義に対して真摯に取り組んだ結果と評価したい。また自由記述のコメントについては授業設計時のねらい通りであった。今後も同様の評価、コメントがもらえるよう努力したい。

2. 今後の授業における目標

評価の低かった「シラバス」については、適切なシラバスが作成できるようにするとともに、つねにシラバスに立ち戻り、学生自身がシラバスの必要性をもてるようにしたい。全体の評価としては平均だけでなく、昨年度の結果も上回った。授業改善の結果であると思われるが、更なる評価のアップを狙えるよう努力し、より良い講義につなげたい。

3. 受講学生に対する要望

与えられたものをこなす力はあるのだが、自ら必要な事を見つけて取り組むことは苦手なようである。講義に必要なだと思うことは積極的に学習し、不明な点は遠慮せずにどんどん質問してほしいと思う。

◆ 精神看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

自身のこれまでの経験から、精神看護学は、精神症状をアセスメントすることはとても難しい、コミュニケーションは難しいという印象を持たれることが多いと感じています。そのため、学生のみなさんがイメージしやすかったり、これまでの経験の中で理解しやすいような例をできる限り用いながら、わかりやすい授業をこころがけています。今回、例をたくさん挙げたことが分かりやすかったというコメントをいただいたので、今後も例を用いたわかりやすい授業づくりをしていこうと思います。

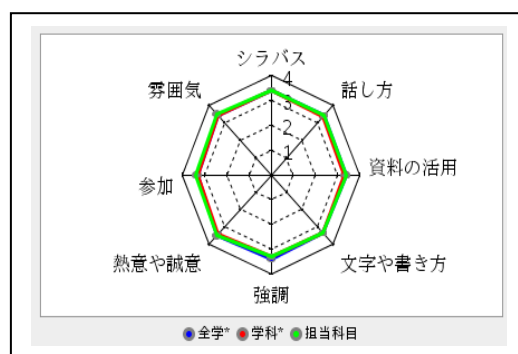
今回は、治療的コミュニケーションや、自己について振り返ることの重要性を学ぶために、ロールプレイを実施しました。課題の設定には、学生のみなさんが気付きや学びを感じられて、かつ、ちょっと興味を持ってもらえそうな内容を考えました。コメントから、普段のコミュニケーションとの違いに気づき、もう少しかわり方を学びたいと感じてもらえたことを嬉しく思います。

看護職は大きな責任を背負い、患者さんのケアのために勉強し続けることを求められる職業ですので、看護教員の一人として、学生のうちに看護職としてふさわしい姿勢を身に付けてもらいたいという願いを込めて、学生のみなさんにかかわっています。今回、いただいたコメントから、自身の思いが伝わっていたと感じ、嬉しく思います。

一方で、どこか大事なかわからない、授業ペースが速かったというコメントをいただきました。授業の中で、重要なところは強調して話すようにしていますが、より分かりやすく強調するよう心掛けていこうと思います。授業スピードについては、内容を詰め込みすぎて、ペースが速かった箇所がありましたので、内容を再度整理し、適切なスピードで授業が行えるよう改善を図っていききたいと思います。

2. 今後の授業における目標

前述のように、重要な箇所の強調と、適切なスピードでの授業の実施に向けて改善を図っていきます。また今後も、例をたくさん用いたわかりやすい授業の実施と、効果的な演習の工夫、学生のみな



さんへの看護教員としてのかかわりは継続していきます。

その他の目標として、教員と学生の双方向のやりとりが展開される授業方法についても取り入れていきたいと思えます。学生のみなさんの知的好奇心をくすぐるような授業づくりを目指します。

3. 受講学生に対する要望

学生のみなさんからの質問や意見は、私自身の気付きにもなり、授業改善にとっても役立ちます。学生のみなさんが、どのようなことがわかりにくいのか、どのように学びたいのかを知ることは、私の教授方法の改善、授業内容の見直しの機会となります。講義後はもちろん、講義中でも積極的に意見を伝えていただくと大変ありがたいです。

精神看護学では、精神科の領域だけでなく、診療科や疾患に限らず、あらゆる対象や場所で、対象とかかわる際に必要とされる精神症状のアセスメント方法や、コミュニケーション技術を学ぶことができます。難しそうだと思う、まずは主体的に積極的に学んでみてください。

◆ 精神看護学概論

1. 授業評価の結果に対するコメント

評価は 3.3 であった。

精神看護学の特徴を強調した授業に心がけたが一部専門用語も含め学生には理解しにくい場面もあったと考える。その反映か『理解』『文字や書き方』の評価が低く出たと考える。

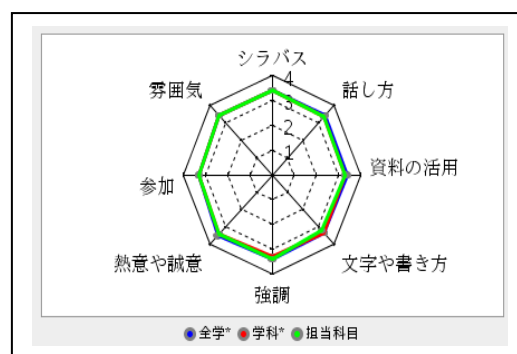
学生の反応を十分評価できていないまま授業を進めた感もあり、今後の課題としたい。

2. 今後の授業における目標

資料を多く提示しながら全体を理解するようになってきたが、今後は資料を精査し重点項目をより丁寧に説明するような授業にしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

学生の授業態度は年々低下しているように感じる。事前学習として最低限度教科書は一読してから授業に臨んでもらいたい。

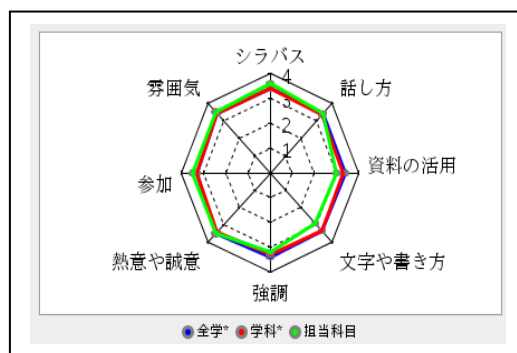


◆ 小児看護学概論

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業前に小テストを取り入れ、学生の授業への積極的な参加および理解力の向上を期待した。学生の「小テストがあるから予習できる」「予習を習慣化することができた」「授業で理解を深めることができた」などの記述による評価から学生の学修に対する向上につながったと考える。しかしその一方では、「小テストの範囲がわかりにくい」「難しい」などの意見があり、この点については、学生の意見を参考にしつつ改善策を考えていく。

2. 今後の授業における目標



小児看護学概論の理解が、小児看護援助論および小児看護演習、さらに、小児看護学実習に結びつくよう授業を展開していきたい。

3. 受講学生に対する要望

学生は、積極的に学修する力を養ってほしい。

◆ 看護過程演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

看護過程は思考過程を学ぶ科目であり、初学の学生にとって難解な部分が多い。そこで、今年度は患者の情報収集を紙面からインタビュー場面のシミュレーションを導入し、情報分析のグループワークにバズ法を取り入れ、実践の経過記録についてはより具体的な解説を加えた。全体的な評価では理解が低い状態であったが、何度も説明をしてもらえた、質問がしやすかったという評価があった。学生が戸惑いやすい

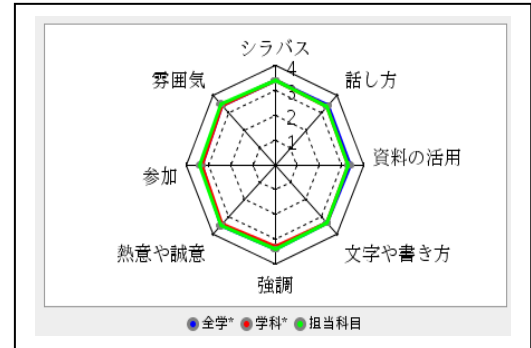
関連図、看護計画の立案には、さらに具体的な解説や参考図書の紹介を行う必要と考える。また、授業進行については、オムニバスで担当する教員と協議し、適切に終了できるように改善していく。

2. 今後の授業における目標

「看護過程」を用いることの意義は、その直後に行われる実習で始めて実感することができる。そこで、学生が躓きやすい「看護過程」の各段階の問題に対し適切なモデルを示し、それぞれの学びと実践過程をイメージしやすい講義としていく。

3. 受講学生に対する要望

必ず事前課題を実施し、意見交流できることが望まれます。分からないところは、積極的に質問してください。



◆ 老年看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

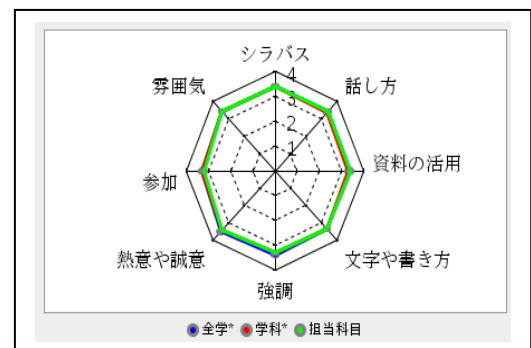
学生自己の取り組みに対する評価、教員の取り組みに対する評価ともに学科評価と差がなく、担当科目の特徴を捉えることができなかった。学生自己の取り組み「学ぶ」「理解」を刺激できる働きかけが必要と認識した。また、教員の取り組み「資料の活用」「文字や書き方」「強調」は、評価の高い科目はどのような取り組みがなされているのか参考にしたいと思う。

2. 今後の授業における目標

科目の特徴として、一つ一つの事象に回答があるわけではなく、自分で考えることが求められる。いかに考える機会を作り、主体的に学ぶ習慣を身につけてもらうかを工夫していきたい。

3. 受講学生に対する要望

教科書を活用し、もっと自己学習に取り組んでもらいたい。



改善点は毎回の講義レポートを活用し伝えて欲しい。

◆ 在宅看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

今年度の授業評価の結果をみて、最も反省すべき点は、学生の学習成果（特に課題）に対する指導である。自己の課題チェックの仕方を振り返ると、まずは課題が提出できているか確認し、その後は一人ひとりの課題に目を通す。よく書けているところには赤線で引き、さらに○をつける。

そして、最後に「みました」というスタンプを押して返却している。一人ひとりに対して、コメント（意見や補足的な解説など）は加えていない。在宅看護論実習の指導が続くなかでの講義であるため、ゆっくりと課題に目を通し、コメントしている時間がないというのが正直なところであるが、一所懸命課題に取り組んでいる学生の気持ちに応える必要があったと反省する。また、自由記述欄に、「課題レポートは自分なりにまとめて提出したが、量とか枚数で評価されるのは少しいやだなって感じた」という意見があった。課題を提示したからには、きちんと目を通して評価する責務があるため、課題の確認の仕方や評価基準においては今後検討していきたい。また、学習成果がでていない学生に対しては、オフィスアワーの時間を利用するなどして、個別に対応する必要があるが、この点は学生の自ら学ぶ姿勢に期待したい。

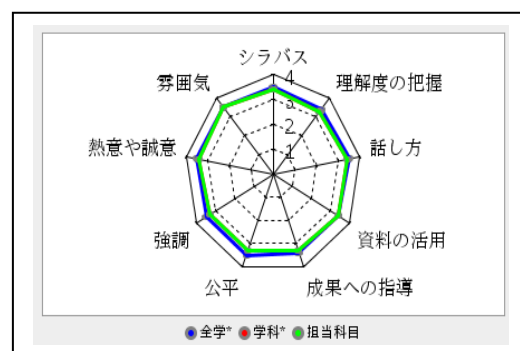
今年度も、学生が学問への興味が高まるような授業を意識して行った。学生は制度に対する学習が苦手であり（興味関心が少なく）、居眠りをしてしまう傾向にあったため、アイパッドを活用した調べ学習を増やした。さらに、在宅看護における必要な看護処置についても、処置手順や注意点を自分で調べさせ、その上で演習を行うようにした。演習後は解説を加え、重要なところを繰り返し説明することで、学生からは「分かりやすかった」という意見があった。自ら調べ、そのあとに演習（実践）する学習方法は効果的であったと評価する。

2. 今後の授業における目標

課題はきちんと目を通し、コメントを加えていく。特に、できているところや不足な部分に対しては、コメントでしっかりと伝えていく。

3. 受講学生に対する要望

課題はこなす（ただ書き写す）だけでなく、理解が深まるように工夫して行ってほしい。

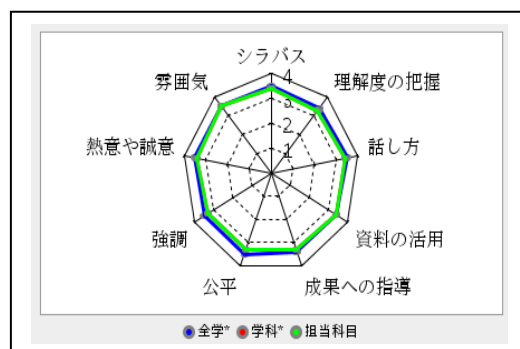


◆ 在宅看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

平均的な評価をいただいたが、自由記載のコメントも少なく、印象に残らない授業であったのではないかと振り返る。自由記載の中には、授業構成や教員としての態度として振り返る言葉があった。

1) 授業対象となる学生を大学生として認識している



が、大学生として対応していない印象をもつ学生

が少なからずいることが分かった。自身の実務経験等の傾向からそのような印象を与える言動があったのだと思うが、社会に出る準備をしている段階である学生に対して、どのような姿勢で接していくことが望ましいのか、考え、行動をとることが今後の課題である。

- 2) 授業態度が好ましくない学年であり、全員に対して注意喚起を行ってきたが、まじめに取り組んでいる学生への配慮が不足していることを痛感した。

まじめに取り組んでいる学生への授業の確保を十分に行っていきたい。

- 3) 授業のスピードは、予習を行っている、他領域ですでに学んでいる内容であることを前提に進めている。このことは開講時に説明している。

予習をしても早いのか、予習をしておらず初めて授業で学ぶから早いのか、コメントや評価だけでは判断ができない。しかし、大学生は自ら学ぶ姿勢が求められることから、予習前提の講義あることは今後も授業の際に伝え、その上で授業のスピードについては考えていきたい。

- 4) テストの範囲はしっかりと教えて欲しい、とのコメントも先と同様であり、学生が自ら学ぶ姿勢が取れているのかが疑問である。大学の講義は、自ら学修を深めるものである。授業形式が自らの学修を深める方向と結びついていないのであれば、授業構成そのものを見直す必要がある。しかし、単にテスト合格を求めているということであれば、学生の姿勢が変わるような投げかけが必要であり、こちらであれば大学全体の課題でもあるように思う。

- 5) 配付資料も昨年度まではスライドをそのまま資料としていたが、「考える」ためにレジメ形式に変更をした。その旨を開講時やその都度伝えたが、どう受け止められたのか、今回の評価だけでは分からない。分かり易いレジメ形式の資料のあり方については、考えていきたい。

2. 今後の授業における目標

どの科目も今後の職業につながる授業であるため、「分かりやすさ」を忘れず、「学生が自ら考える」ことができる授業形態を模索し、実践していく。

3. 受講学生に対する要望

予習、他領域での知識と連動を前提として授業は展開されるので、その点を意識して、自ら学修する意識を持ってください。

分からない点は、その場または出席カードへコメント、オフィスアワーに尋ねてくるなど自己努力をしてください。

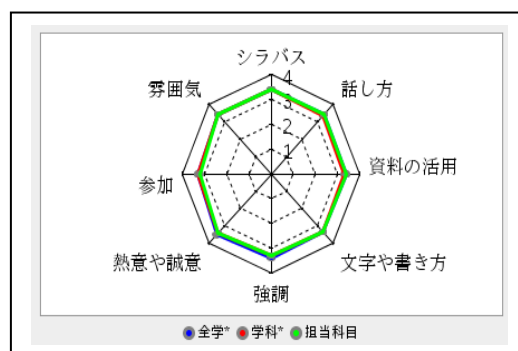
◆ 老年看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

引き続き、順序立てて理解につなげられる授業構成を心がける。講義内容も時事問題も踏まえて主体的に考えられるような問いかけも増やしていきたい。また、コメントカードの質問内容は、全て記入して返却することも続けていく。

要所は繰り返すように強調して説明をしているが、講義の初頭に要点をつかむとはどのようにするのかといったミニトークを交えることを検討する。

2. 今後の授業における目標



体験型や双方向性の内容を組み込んでいきたい。

外部講師を招いての、ディスカッション型の講義の実施。

3. 受講学生に対する要望

学習は復習が大切。その日のうちに振り返り、不明な点は質問して解決してほしい。

【 総合教育センター 】

◆ 生活環境論

1. 授業評価の結果に対するコメント

重要事項の強調、授業参加の促進、雰囲気づくりに対する評価が相対的に低かったので、自由記述も参考にしながら、自分なりの反省点をあげて、見直しに取り組みます。

授業外の学修について学生のみなさんの取組が十分とはいえない状況も見受けられますので、具体的な取組がわかるとともに、できるだけ意欲が持てるものを工夫して考えていきたいと思ひます。

授業担当者の立場からは、学生のみなさんの授業に対する取組自体はとても意欲的でしたし、多くが熱心に聴いて考えてくれたことを大変うれしく感じています。到達目標に対しては残念ながら全員が非常に高いレベルで到達したとはいえませんが、全員レポートを読むと、ひとり一人が成長できたことがわかり、授業者としては満足しています。

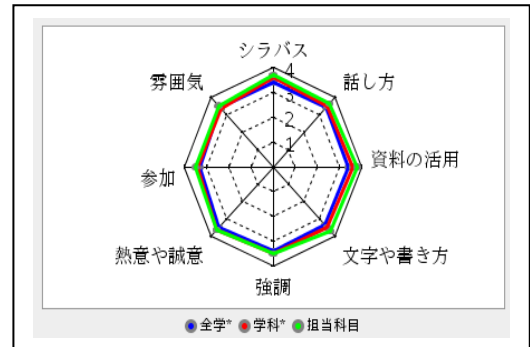
2. 今後の授業における目標

上記の点を留意しながら、さらに学生のみなさんが到達目標を高いレベルで到達できるような授業づくりに当たりたいと思ひます。なかなか毎回は実施できませんが、小集団での話し合いを積極的に取り入れていくことも、引き続き課題だと考えています。

授業評価を見ると、レポートの書き方を授業に組み込んでいますが、割と好評のようなので、引き続き行っていきたいと思ひます。

3. 受講学生に対する要望

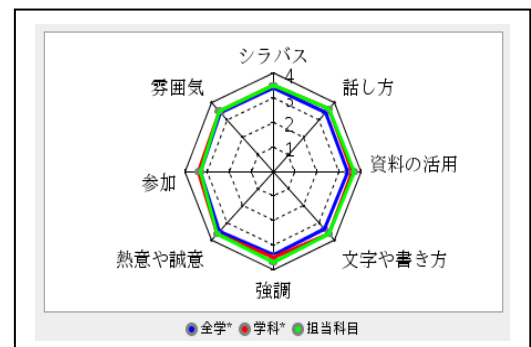
学びを生活の中心据えて、時間をかけて取り組める時期は、ほとんどの学生のみなさんにとって、在学している今しかありません。せつかくですから、そうした時期にいられることを十分にいかし、授業はもちろん、あらゆることに興味と関心にもとづく好奇心を持って、意欲的に学んでいきましょう。



◆ 発達心理学

1. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組、教員の取組ともにすべての項目で全学平均点以上という結果でした。特に「知識・見方を学べたか」という項目の得点が高く、身の回りの世界を発達心理学的な視点からとらえなおしてほしい、とい



う狙いは伝わったようで嬉しいです。比較的得点の低い項目は「(学生自身が) シラバスを読んだか」「教員が参加を促したか」でした。この科目は共通科目なのでシラバスを配付せず、授業時間内に読み合わせをしなかったことを指しているのだと思います。参加を促すというのは、各自のモチベーションの度合いに任せたくて取って行っていない部分なのですが、今後再考すべき点だと認識しなおしました。自由記述の「良かったところ」にたくさんコメントをいただき、伝えたいことが伝わった手ごたえを感じました。今後の授業に取り組むうえで、励みになります。

2. 今後の授業における目標

全員にとってわかりやすく有意義な授業を行うために、一人ひとりの学生からのミニッツペーパーへのコメントや質問・要望を今まで以上に丁寧に読み取り、臨機応変に授業に取り入れていきたいと思っています。一人の学生の声で次からの授業が改善される、ということを、学生みなさんに実感してもらえるようにします。

3. 受講学生に対する要望

とにかく、みなさんの声を聞かせて下さい。いいことも悪いことも、授業担当者に直接伝えることで、みなさんの大学での学びがもっと有意義なものになります。

【 非常勤講師 】

◆ 看護学科：リハビリテーション

1. 授業評価の結果に対するコメント

- 授業の組み立てにおいて、概論から疾患についてのリハビリテーションや実技を導入して理解を促したことが、比較的バランスの良い評価をいただいた要因と推測します。
- 集中力を持続するように工夫した点（授業合間に心理テストを行うなど）が、学生の授業態度に反映されていたようです。

2. 今後の授業における目標

*学生の心に響く授業にしたい。

- ①リハビリテーションの概念を理解し、臨床に結び付けて捉えることができる。
- ②具体的な症例や実技を導入し、疾患に応じたリハビリテーションを提供することができる。
- ③看護職という立場で、日常の看護業務の中にリハビリ要素を含めたアプローチができるようになる。

3. 受講学生に対する要望

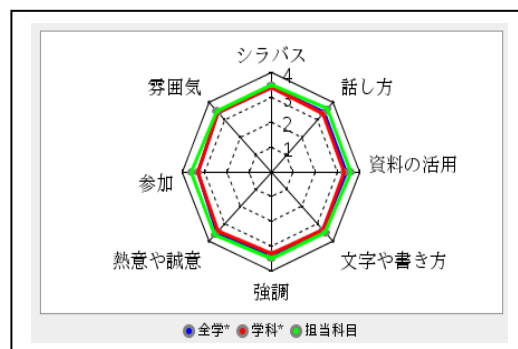
- ①「考える」習慣を身につけてほしい。

疑問に思ったことを探求して、わからないことは質問する。

そのためには、まず臨床（看護業務）に興味や関心を持つことが必要である。

- ② 「気づき」ができる人になってほしい。

- ③ 小さな喜びや発見を対象者と共感して日常業務に活かしてほしい。



◆ デザイン美術学科：デザインワーク基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

教員の取組に対する評価の結果は嬉しいところですが、自己の取組に対する評価をもっと上げてあげることが出来なかった事を講師として反省しなければいけないというのが率直な感想です。

この授業ではテクニカルを教える部分と、デザインと向き合う姿勢を教える部分の二本柱になります。

テクニカルに関しては教えた知識に関しては習得出来ても応用に挑戦する高い意欲と達成感を感じる機会をも

っと学生たちに与えた方が良かったと反省しております。プロデザイナーがデザインの中で魅せているあの表現方法はどんなテクニックを使えば出来るのか、実際にマネをして自分のモノにしてみようというような挑戦をパソコンを持たず、授業後即帰らなければいけない学生もいる中で宿題として与えてしまっているのかという悩みもあり、高いハードルを減らし授業時間内の範囲で達成出来る内容にシラバスを留めてしまった点も満足感を上げられなかった要因としてあったのかもしれない。

またデザインと向き合う姿勢に関してはもっと日頃の生活にポスター、チラシ、パッケージ、書籍、ロゴといったグラフィックデザインの領域だけでなく、建築やインテリア、雑貨、ゲームなど得られるデザインの情報には意識をして目を向ける事をアドバイスする事はしてきました。しかしアドバイスに留めず授業外の学習として実行させデザインに目を向ける意識を学生たちが楽しみながら無意識に出来るようになるまで実行を継続させる事も今の学生たちなら難なくしてくれたかもしれないなど半年授業をして、この学生の自己評価を見て感じました。

2. 今後の授業における目標

高いクオリティのデザインに触れる機会が名古屋市や岐阜市に比べたら少ない点ではありますが、大垣市から出来るデザインの発信のスタイルを作り、実現していきたいと考えております。その中で学生たちにはもっと『デザインってカッコイイ！』『デザインは人の役に立っている！』を自分から表現する経験と周囲から喜んでもらえる体験の中で感じさせてあげたいです。

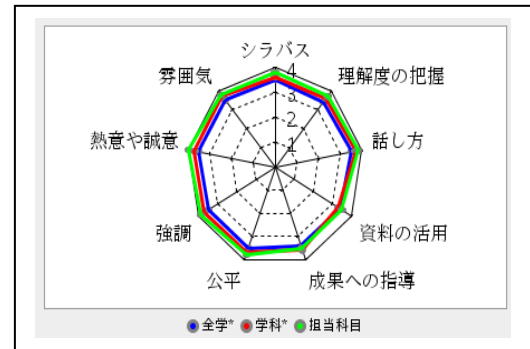
具体的な案は教室から出て学ぶ内容もあり私一人では決められないためここでの言及は避けますが今後デザイン美術学科の教員の先生方と相談しながら決めていきたいと考えております。

3. 受講学生に対する要望

デザインコースが誕生してから2年目、デザインをするんだという意識が上級生の姿を見る下級生たちに良い形で影響し始めデザインに向き合う姿勢や行動が急成長しています。

レイアウト、書体、色、写真、イラスト様々な要素を組み合わせる表現し問題解決につなげるデザインを見て自己分析する機会を作っていくので急成長した学生たちの次の目標と行動として私もサポートしていきます。日常生活の中で無意識にデザインを吸収出来るようにしていきましょう。

授業の担当が外れた学生たちも遠慮せずこれからも質問や相談に来てください。



本学の教職員は これからも
学生みなさんの学びをさらに深めるために
よりよい授業づくりへの努力を続けます



学生みなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生の皆さんが居てこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取り組みと率直な声、それを受けての教員の授業改善、という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行って、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を一緒に作り上げていきましょう。



総合評価が高かった教員を対象に顕彰が行われています。
令和元年度前期は以下の教員が顕彰の対象になりました。

「保育原理」
「マンガ基礎」

